



巳春

上巻

角濱

由井

小説

京國

13
3709



門 13
 號 3709
 卷

美 比 芝 居 寄 心 心


 娘みぎれ
 妹まのぬ
 説書濱
 全本六卷
 文政十四乃り集
 巳のころり集



山東京山作
 歌川國貞画

本舞臺三間のあひの常置の二重舞臺藁藁口

と見せ上の方に反古張の障子二枚建此意は仕懸物向

幕は上と下ふ松の五本りらの所より

都て山中賤が家のから

中四良一きやの女房れり

菊の臺と

系車と

文政三年庚辰首夏
 脱稿同年初秋持行

山東庵京山戲編





京水
 小田
 乃
 桂
 も
 だ
 ん
 ま
 の
 ま
 く



桂
 男
 乃
 顔
 之
 名
 之
 也

周
 の
 此
 也



わがまゝに...



わがまゝに...



わがまゝに...

Handwritten text in vertical columns, likely a preface or introductory text, written in a cursive style.



Small vertical text at the bottom left corner of the page, possibly a signature or publisher's mark.

Handwritten text in vertical columns, continuing the narrative or providing commentary on the scene.



Small vertical text at the bottom right corner of the page, possibly a signature or publisher's mark.

① 入仕の人の名をいふ
 ② 入仕の人の名をいふ
 ③ 入仕の人の名をいふ
 ④ 入仕の人の名をいふ
 ⑤ 入仕の人の名をいふ
 ⑥ 入仕の人の名をいふ
 ⑦ 入仕の人の名をいふ
 ⑧ 入仕の人の名をいふ
 ⑨ 入仕の人の名をいふ
 ⑩ 入仕の人の名をいふ



① 女の名をいふ
 ② 女の名をいふ
 ③ 女の名をいふ
 ④ 女の名をいふ
 ⑤ 女の名をいふ
 ⑥ 女の名をいふ
 ⑦ 女の名をいふ
 ⑧ 女の名をいふ
 ⑨ 女の名をいふ
 ⑩ 女の名をいふ

① 女の名をいふ
 ② 女の名をいふ
 ③ 女の名をいふ
 ④ 女の名をいふ
 ⑤ 女の名をいふ
 ⑥ 女の名をいふ
 ⑦ 女の名をいふ
 ⑧ 女の名をいふ
 ⑨ 女の名をいふ
 ⑩ 女の名をいふ



① たの名をいふ
 ② たの名をいふ
 ③ たの名をいふ
 ④ たの名をいふ
 ⑤ たの名をいふ
 ⑥ たの名をいふ
 ⑦ たの名をいふ
 ⑧ たの名をいふ
 ⑨ たの名をいふ
 ⑩ たの名をいふ

これにうらみはたはるくぬかへたかすのわんを
あつたふにうりてしつらむすたわはひの
つらむすたわはひの
あつたふにうりてしつらむすたわはひの

あつたふにうりてしつらむすたわはひの
あつたふにうりてしつらむすたわはひの
あつたふにうりてしつらむすたわはひの
あつたふにうりてしつらむすたわはひの



あつたふにうりてしつらむすたわはひの
あつたふにうりてしつらむすたわはひの
あつたふにうりてしつらむすたわはひの



あつたふにうりてしつらむすたわはひの
あつたふにうりてしつらむすたわはひの
あつたふにうりてしつらむすたわはひの



あつたふにうりてしつらむすたわはひの

あつたふにうりてしつらむすたわはひの
あつたふにうりてしつらむすたわはひの
あつたふにうりてしつらむすたわはひの

あつたふにうりてしつらむすたわはひの
あつたふにうりてしつらむすたわはひの
あつたふにうりてしつらむすたわはひの

八百屋の主人のあんなに
うまい八百屋の主人のあんなに
うまい八百屋の主人のあんなに
うまい八百屋の主人のあんなに

あんなにうまい八百屋の主人のあんなに
あんなにうまい八百屋の主人のあんなに
あんなにうまい八百屋の主人のあんなに
あんなにうまい八百屋の主人のあんなに



あんなにうまい八百屋の主人のあんなに
あんなにうまい八百屋の主人のあんなに
あんなにうまい八百屋の主人のあんなに
あんなにうまい八百屋の主人のあんなに

あんなにうまい八百屋の主人のあんなに
あんなにうまい八百屋の主人のあんなに
あんなにうまい八百屋の主人のあんなに
あんなにうまい八百屋の主人のあんなに



あんなにうまい八百屋の主人のあんなに
あんなにうまい八百屋の主人のあんなに
あんなにうまい八百屋の主人のあんなに
あんなにうまい八百屋の主人のあんなに

つぎにちりまんのものあつたよらて
あかきやんがけらへあつたせめ
さうにけらへいかにひらひらを
すまへにきやんせ

あつたよらて
あかきやんがけらへあつたせめ



あかきやんがけらへあつたせめ
さうにけらへいかにひらひらを
すまへにきやんせ
あつたよらて
あかきやんがけらへあつたせめ
さうにけらへいかにひらひらを
すまへにきやんせ

あつたよらて
あかきやんがけらへあつたせめ

あつたよらて
あかきやんがけらへあつたせめ

あつたよらて
あかきやんがけらへあつたせめ

あつたよらて
あかきやんがけらへあつたせめ
さうにけらへいかにひらひらを
すまへにきやんせ

あつたよらて
あかきやんがけらへあつたせめ



あまの
かたの
あまの
あまの
あまの

大治 森 乃 夜 中 賀 大

由井が濱

中乃巻

二冊

山東
廣印

赤定 已亥 朱梓

山東 廣

京以 作

玉渡 亭

園 負 画

綿壽堂

朱林

三の巻に
かゝるやうに
つるまのやうな
ちのけりな
そのあはれさ
かゝるやうな
つるまのやうな
ちのけりな
そのあはれさ
かゝるやうな
つるまのやうな
ちのけりな
そのあはれさ

つるまのやうな
ちのけりな
そのあはれさ
かゝるやうな
つるまのやうな
ちのけりな
そのあはれさ

つるまのやうな
ちのけりな
そのあはれさ
かゝるやうな
つるまのやうな
ちのけりな
そのあはれさ



今井公家

今井公家の...
の...
の...
の...

今井公家の...
の...
の...
の...



今井公家の...
の...
の...
の...

今井公家の...
の...
の...
の...



今井公家の...
の...
の...
の...

何れ
 なるかその安せすねを
 けあけしあちあねそそ
 するさうちのねつゝもたれ
 うのねむいひいんすゆも
 ことひひうさるゝ

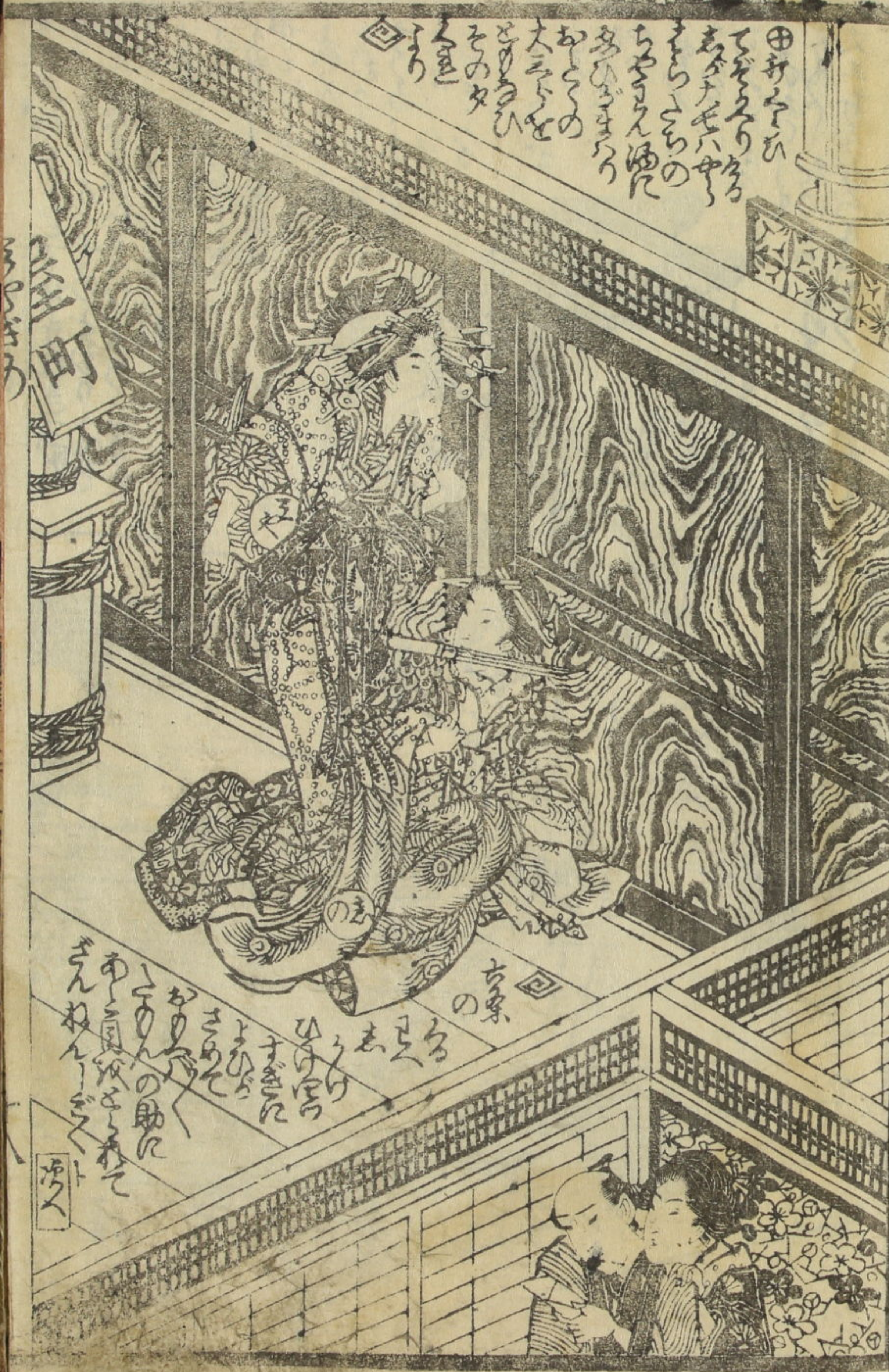


の
 ち
 の
 ち
 の
 ち
 の
 ち
 の
 ち
 の
 ち



何れ
 なるかその安せすねを
 けあけしあちあねそそ
 するさうちのねつゝもたれ
 うのねむいひいんすゆも
 ことひひうさるゝ

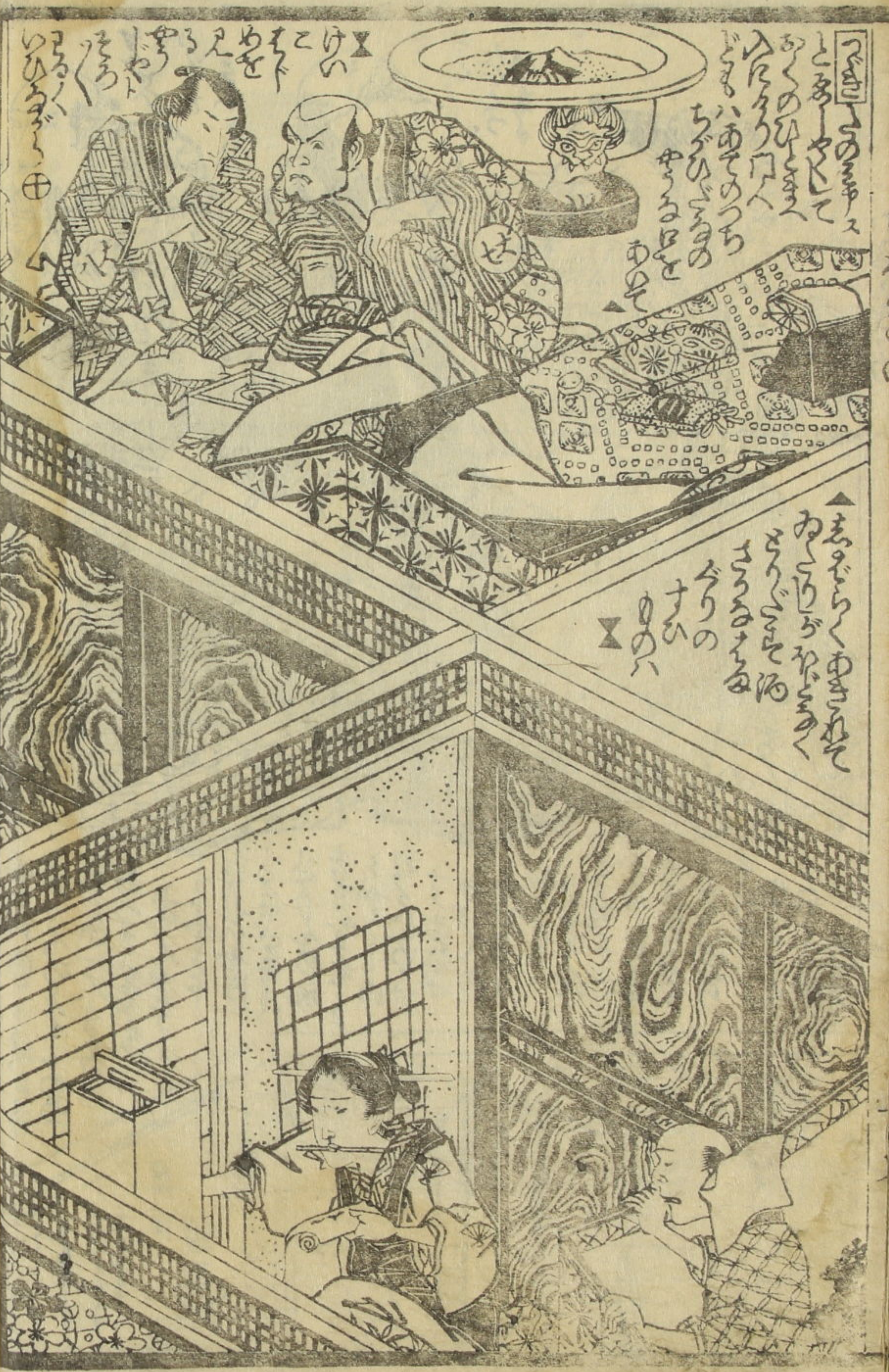
の
 ち
 の
 ち
 の
 ち
 の
 ち
 の
 ち



田舎をい
 てをり
 あなを六中
 らちえん海
 あひまら
 あつたの
 大を
 どのあひ
 そのか
 んを
 ころり

三町の
 一の助
 市助
 さんねん

三町



こけい
 めを
 兄弟を
 ちや
 ちや
 ちや
 ちや
 ちや

三町の
 一の助
 市助
 さんねん

三町

おのちの大七と申すは
 ちよと申すのことは
 あらゝもあやふし
 ものちよと申すは
 ちよと申すのことは
 あらゝもあやふし
 ものちよと申すは
 ちよと申すのことは
 あらゝもあやふし
 ...



おのちの大七と申すは
 ちよと申すのことは
 あらゝもあやふし
 ...

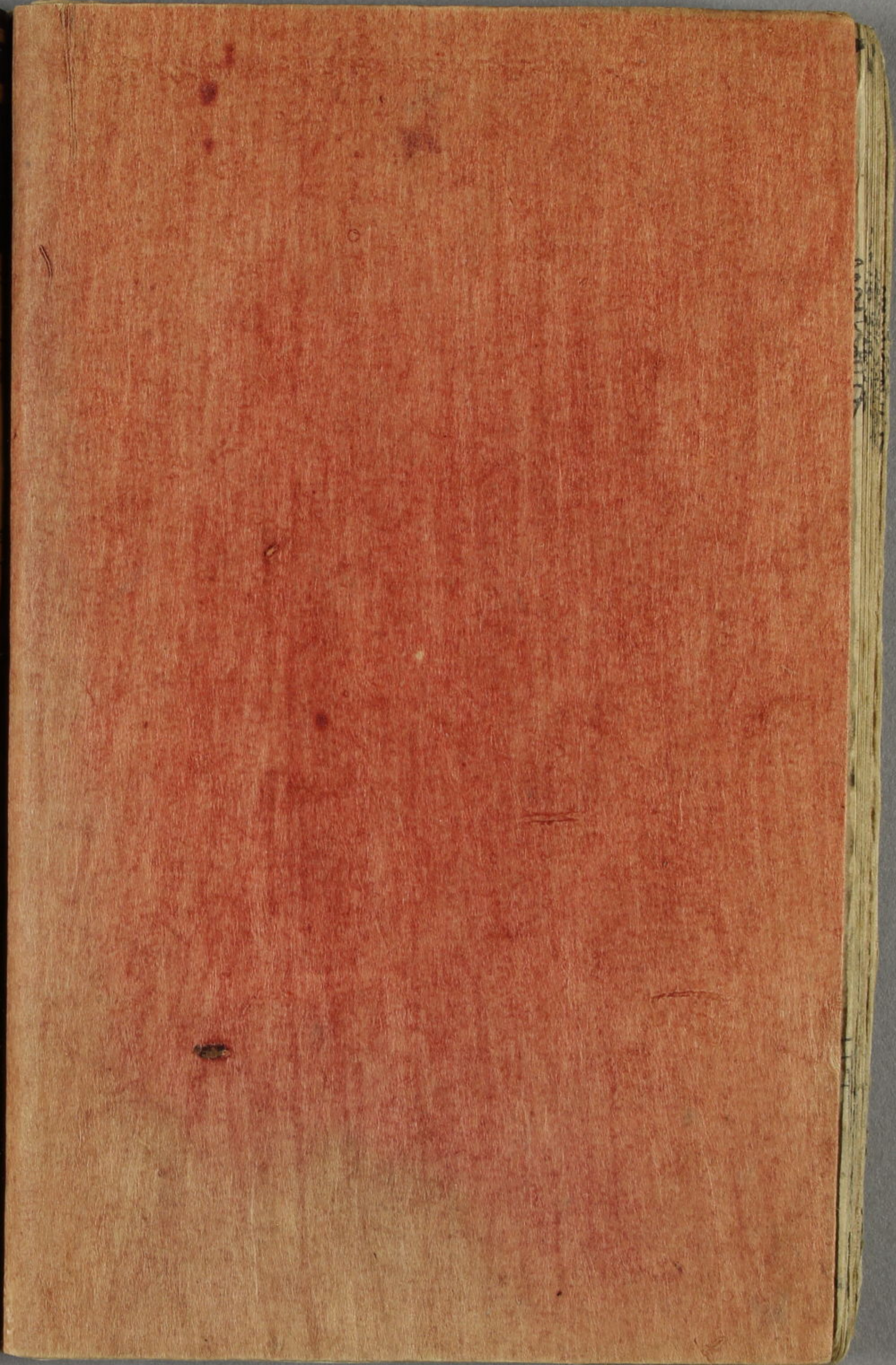




説由井が濱下

月おぢやえりあひらあこしやうさめ
身の内たふれと守の末アうこりや
んちみであらうかや

巳のま
森治板



山本庵素月作
五渡身園貞画
下乃卷

小説由井濱

文政辛巳春 錦森堂梓行



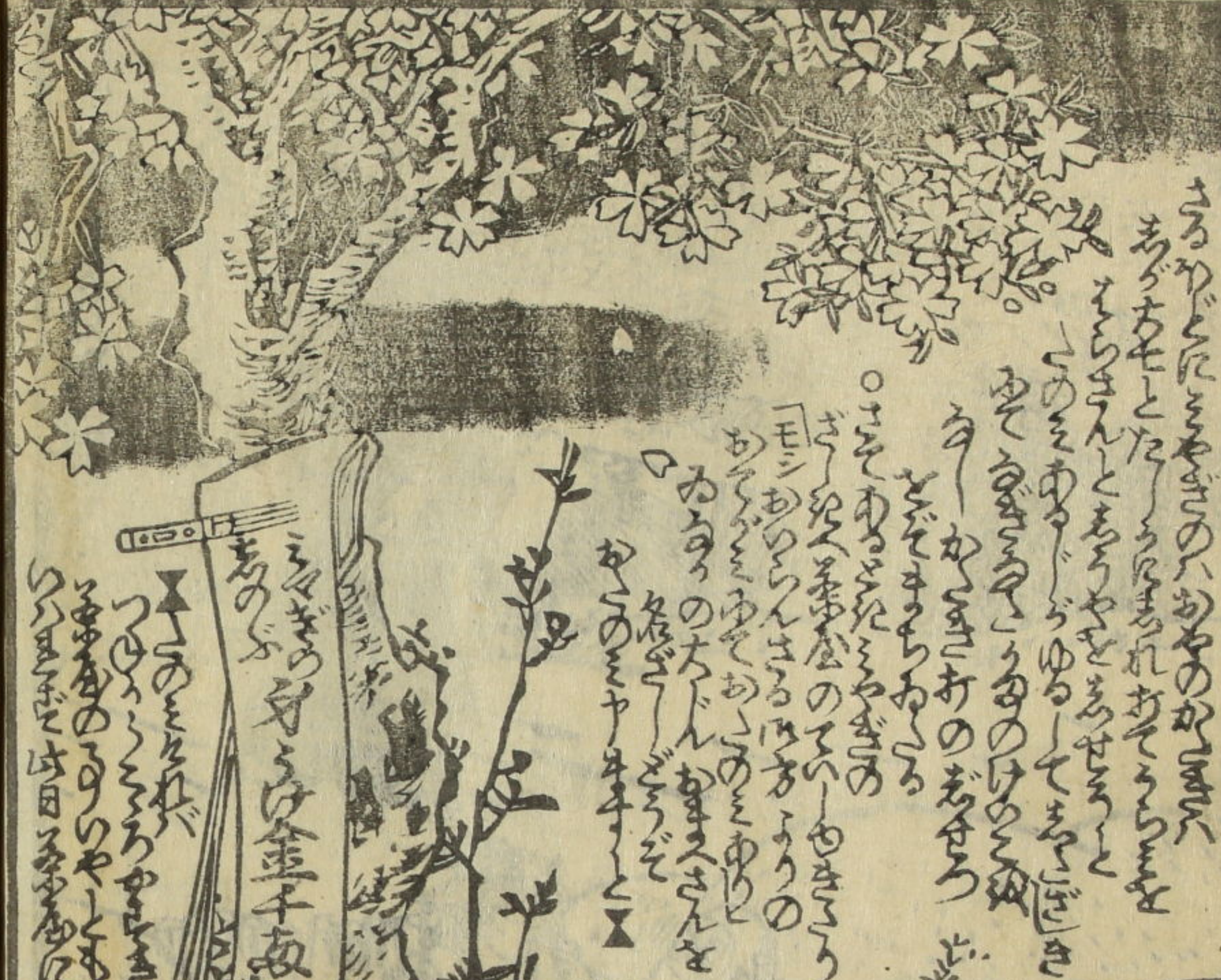
おもしろき事なればはなれり
口上は夏目辰平の物語
五渡身の園貞画
山本庵素月作





月夜
舟中
月夜
舟中

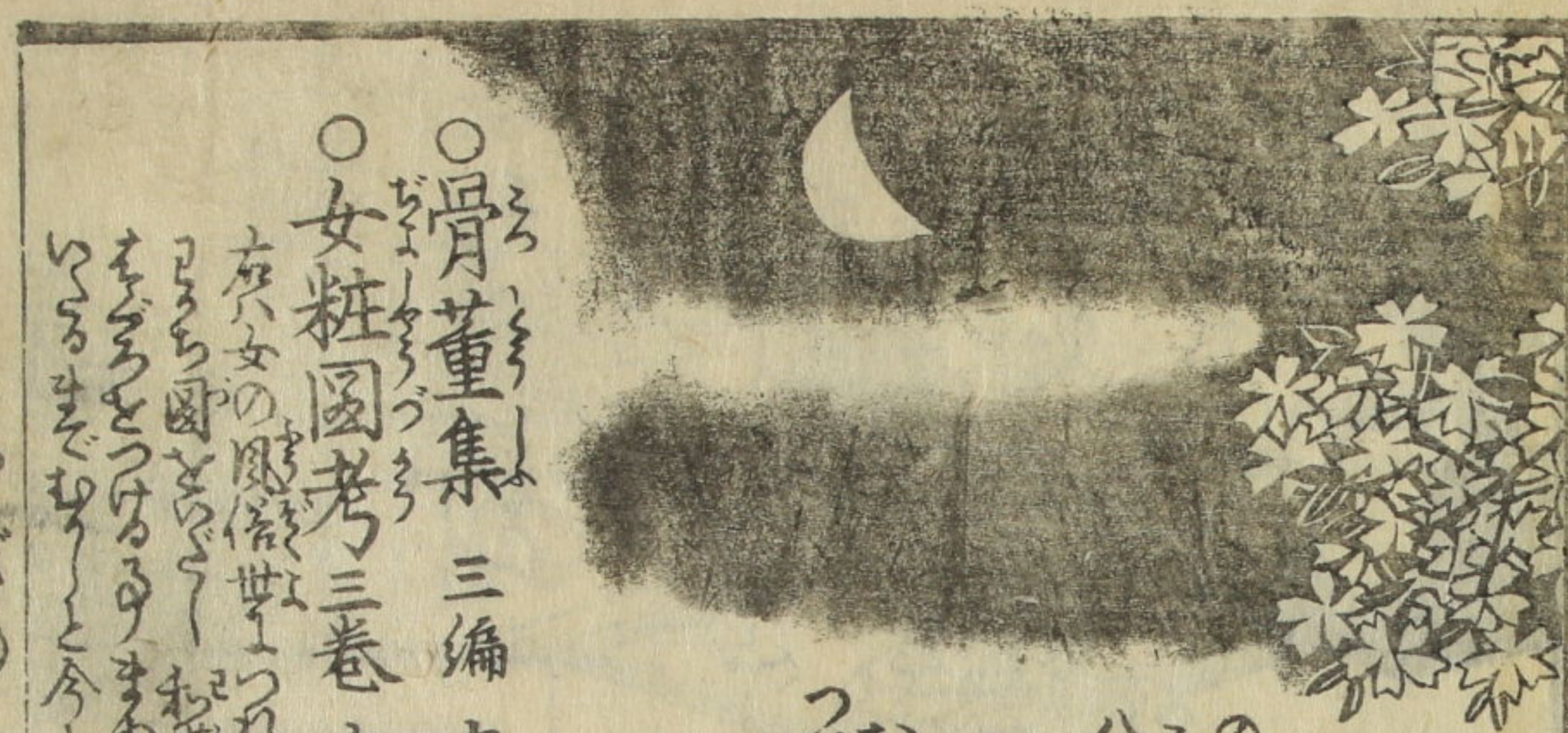
Wakayuki



さうりやうにまをのいぬのかみ
あつちとたつたまれおと
さうりやうにまをのいぬのかみ
あつちとたつたまれおと
さうりやうにまをのいぬのかみ
あつちとたつたまれおと

さうりやうにまをのいぬのかみ
あつちとたつたまれおと
さうりやうにまをのいぬのかみ
あつちとたつたまれおと
さうりやうにまをのいぬのかみ
あつちとたつたまれおと

廿二



さうりやうにまをのいぬのかみ
あつちとたつたまれおと
さうりやうにまをのいぬのかみ
あつちとたつたまれおと
さうりやうにまをのいぬのかみ
あつちとたつたまれおと

さうりやうにまをのいぬのかみ
あつちとたつたまれおと
さうりやうにまをのいぬのかみ
あつちとたつたまれおと
さうりやうにまをのいぬのかみ
あつちとたつたまれおと

○骨董集 三編 京傳遺稿 京山補著近刻
○女粧圖考 三卷 京山人百樹著近刻

右の女の風俗世につれかへる事と上代中古近古と三つを
こゝろに圖をいへり 女粧の風俗世につれかへる事と上代中古近古と三つを
こゝろに圖をいへり 女粧の風俗世につれかへる事と上代中古近古と三つを
こゝろに圖をいへり 女粧の風俗世につれかへる事と上代中古近古と三つを

骨董集

骨董集

おんがしんか



うきうき
その目に
ありなれ
おくれ
あつひ
どのこひ
びい
ちん
ハ
えん
の
が
か
り

おんがしんか

おんがしんか

廿四

おんがしんか



おんがしんか

おんがしんか

おんがしんか

廿五



わがやせうらひにこのたのめ
 まれらひくゆきをくらす
 りゆよこのかみの月より
 むさからむひかむじはた
 きやれたるバクマシマの
 だむひまどとけ
 コリヤサマイヤサあまひ
 らひまよね 団やうの
 ぶでまぬら ちやうの
 シテありのりのいざあ
 さか一編ちんむのそん
 ねのやう川やそのすけ
 りゆりこの「かろ」やに
 出羽のちんむらトキのそ
 りゆのこのすけあけ
 ▲とせやへんむのめあその
 わらんとうあきののうそ
 アトドんらせのめあむ
 かせぞ せう「や」はるら
 東ぐのちんむら上系つ
 まつりトモ系へんふるら
 きまよくすかりまする
 ちんむらひあやま
 シマをゆめくはるら
 「かろ」のやせらうらん



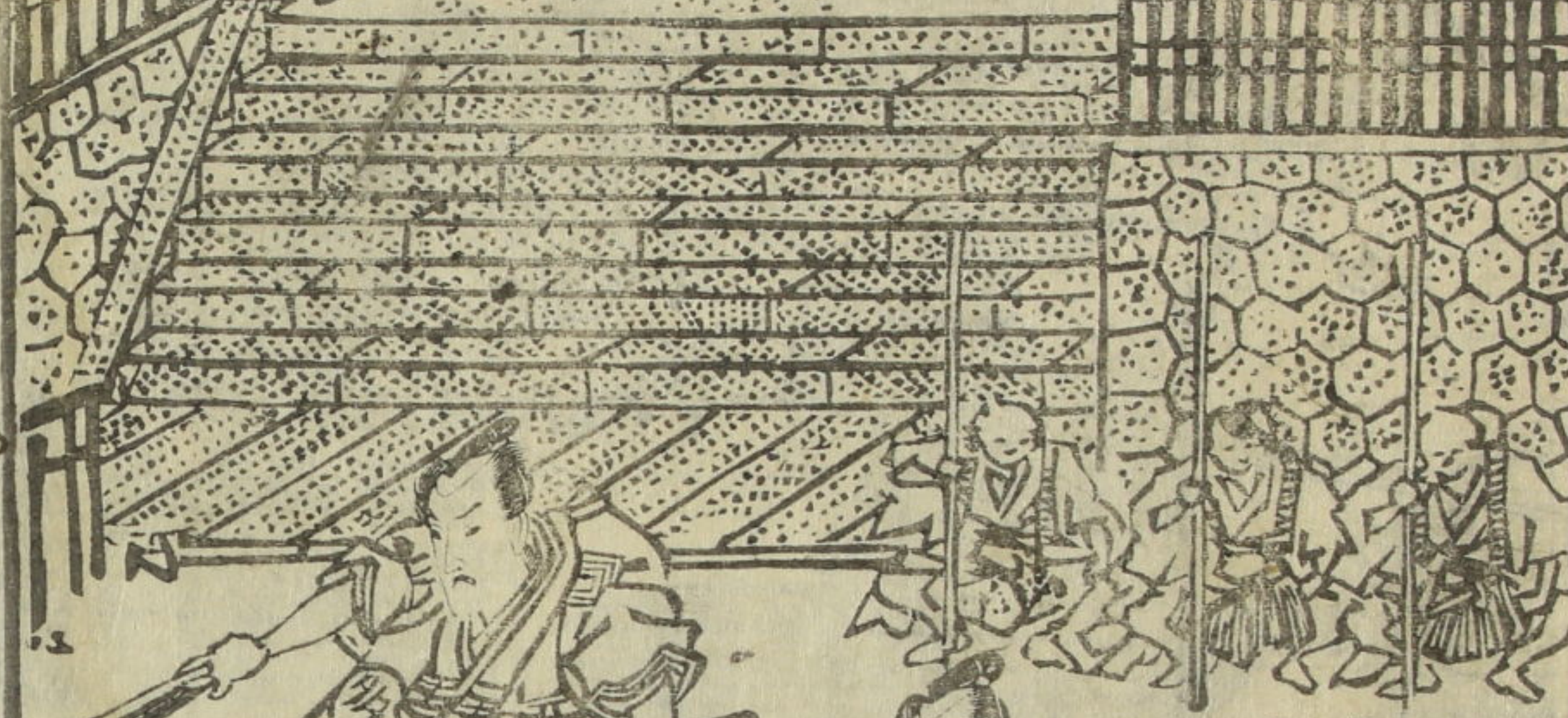
わがせうらひにこのたのめ
 まれらひくゆきをくらす
 りゆよこのかみの月より
 むさからむひかむじはた
 きやれたるバクマシマの
 だむひまどとけ
 コリヤサマイヤサあまひ
 らひまよね 団やうの
 ぶでまぬら ちやうの
 シテありのりのいざあ
 さか一編ちんむのそん
 ねのやう川やそのすけ
 りゆりこの「かろ」やに
 出羽のちんむらトキのそ
 りゆのこのすけあけ
 ▲とせやへんむのめあその
 わらんとうあきののうそ
 アトドんらせのめあむ
 かせぞ せう「や」はるら
 東ぐのちんむら上系つ
 まつりトモ系へんふるら
 きまよくすかりまする
 ちんむらひあやま
 シマをゆめくはるら
 「かろ」のやせらうらん

神のの



此方もあるこの世は又男の
女もあつたさうなる由
合

きり久
おれり
たかあ
此目
此目
此目
此目
此目
此目
此目
此目
此目
此目



それか
まのび
ひ

京山に「はてあまのねえんえ
えの作ふところからしんこいし
スのつりしんこいしハと
まの女松
考の作
日

秋の夕べ
三三三
作と人
大なる

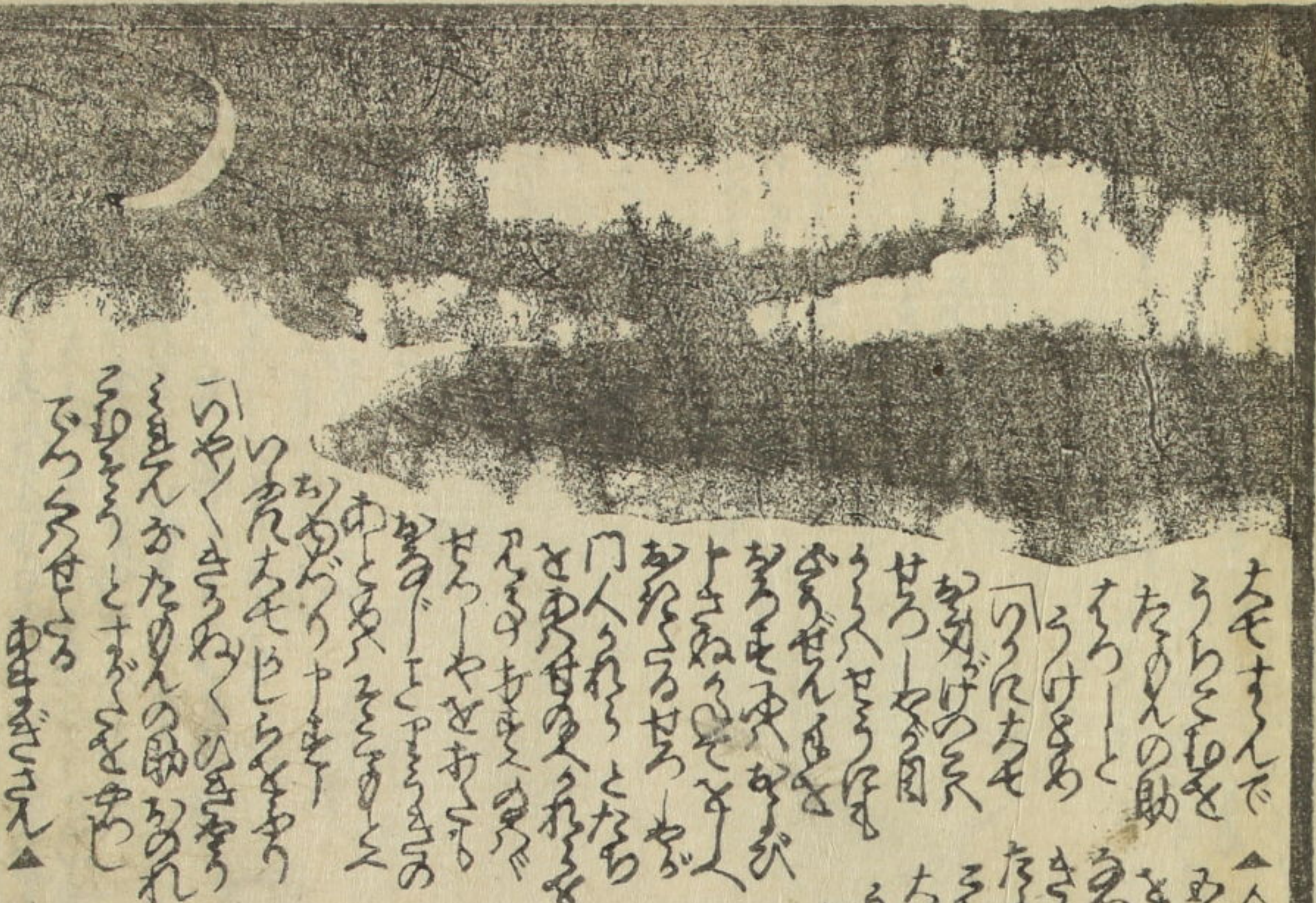
○かゝる大座敷に人々の助を
うのむはなればあきらまぬ門人まは
し年の末にうらたはつりなせむ
あらうのやくさう二本

ひまののせんせんか
うあせふれたかん
右のりうりしあき
甲もしあき
かへねん
おろくともさ
つてすくの内
あきらむる
あきらむる
あきらむる
あきらむる



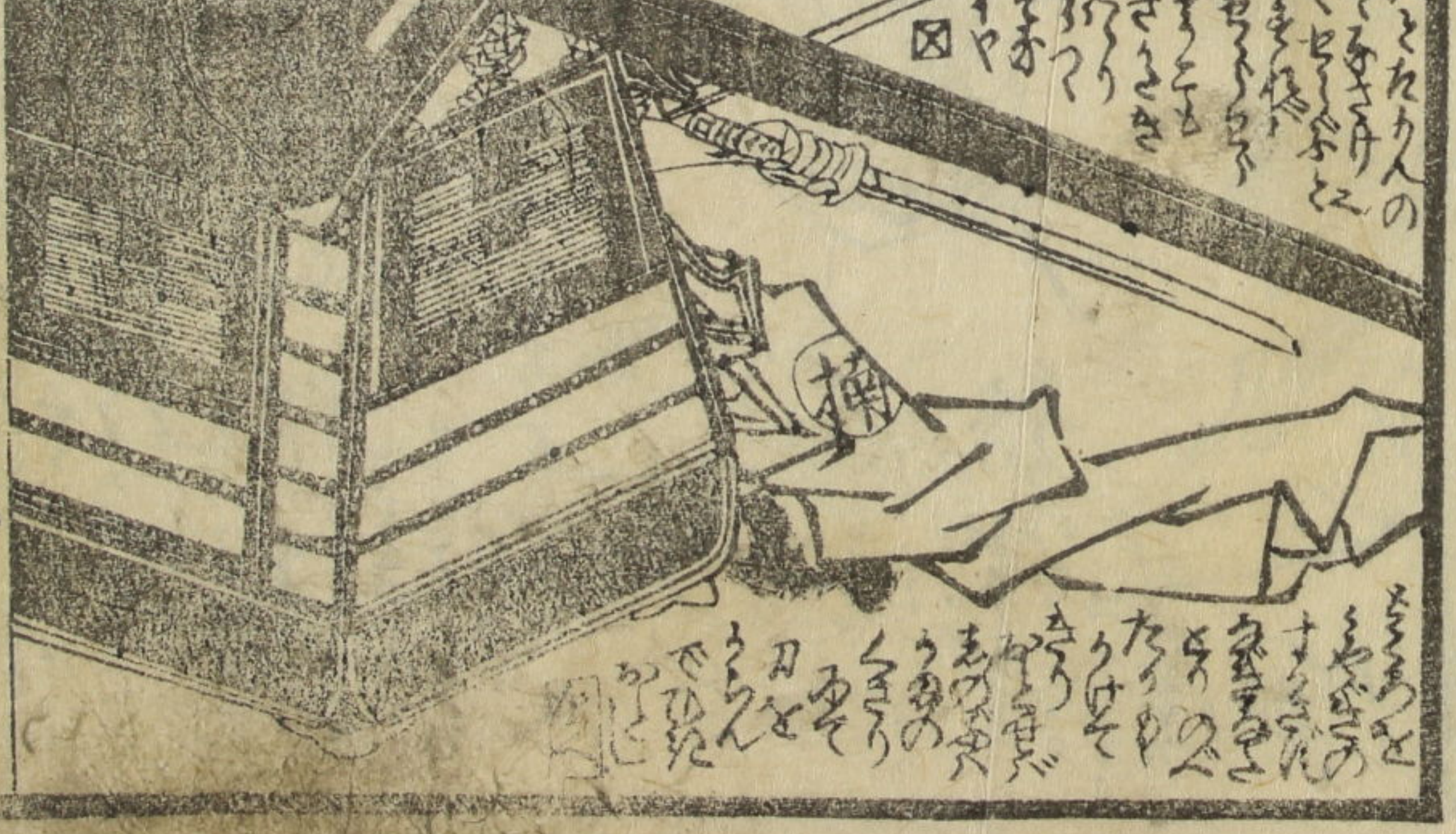
今ぞしとさ
あきらむる
あきらむる
あきらむる
あきらむる

□ かくらひし
あきらむる
あきらむる
あきらむる
あきらむる



大座敷に
あきらむる
あきらむる
あきらむる
あきらむる

あきらむる
あきらむる
あきらむる
あきらむる



あきらむる
あきらむる
あきらむる
あきらむる

このついでに... 大正の... 二人の女... 又かまへ

大正の... 二人の女... 又かまへ



このついでに... 大正の... 二人の女... 又かまへ

大正の... 二人の女... 又かまへ



